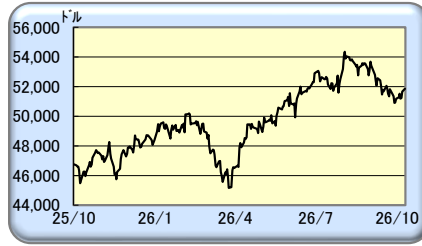


1. 日米株式と円/ドルの推移

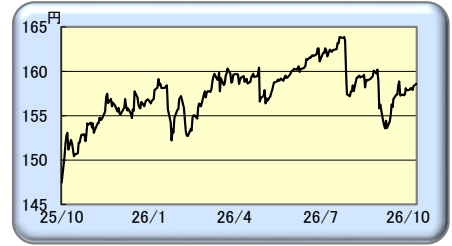
<日本株(日経平均)>



<米国株(NYダウ)>



<円/ドル>



(注)チャートは過去1年

	単位	2025/12/31 (前年末)	2026/9/30 (前月末)	2026/10/9 (前週末)	過去3年高値		過去3年安値	
日経平均	円	50,339.48	66,753.72	69,030.92	水準	2026/6/22	30,538.29	2023/10/30
NYダウ	ドル	48,063.29	50,906.05	51,654.95	水準	2026/8/5	32,327.20	2023/10/27
円/ドル	円	156.71	157.41	158.31	水準	2026/7/23	139.58	2024/9/16

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

~ FRBの早期追加利上げ観測の後退が好感され上昇 ~

先週の日本株市場は、日経平均が+721.46円(+1.06%)、TOPIXが+13.81ポイント(+0.34%)となりました。FRB(米連邦準備理事会)の早期追加利上げ観測の後退が好感され上昇しました。業種別では、サービス業、ゴム製品、食料品など19業種が上昇した一方、非鉄金属、銀行業、建設業など14業種が下落しました。

5日は、先々週末に発表された米雇用統計が市場予想を下回ったことで、FRBの早期追加利上げ観測が後退し、投資家のリスク選好姿勢が強まったことなどから、上昇しました。6日は、前日の米国株市場でハイテク銘柄を中心に上昇したことを背景に、国内のAI・半導体関連銘柄にも買いが広がりました。また、為替相場で円安が進行し、輸出関連銘柄への追い風となったことなどから、2日続伸しました。7日は、前日まで急ピッチで上昇してきた反動で利益確定売りが強まり、3営業日ぶりに反落しました。8日は、前日の米国株市場が下落したことに加え、米長期金利が24年ぶりの高水準まで上昇したことなどが嫌気され、2日続落しました。9日は、米OpenAI社の年間売上高が市場予想を上回ると報じられ、AI・半導体関連銘柄に買いが広がりました。一方、ゲーム関連や海運など、出遅れ感のあった銘柄に買いが広がったことで、3日ぶりに反発して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
10月13日	Tue	日本	企業物価指数(前年比)	9月	+7.6%
		米国	中古住宅販売件数	9月	+398万件
		中国	CPI(消費者物価指数)(前年比)	9月	+0.8%
10月14日	Wed	米国	CPI(除食品・エネルギー/前年比)	9月	+2.4%
			米地区連銀経済報告(ページブック)公表		
		日本	機械受注(船舶・電力を除く民需)(前月比)	8月	▲3.7%
		欧州	鉱工業生産(前月比)	8月	▲0.1%
10月15日	Thu	米国	ニューヨーク連銀製造業景況指数	10月	7.6
			小売売上高(除自動車/前月比)	9月	+1.3%
			フィラデルフィア連銀製造業景況指数	10月	37.8
10月16日	Fri	米国	PPI(生産者物価指数)(除食品・エネルギー/前年比)	9月	+4.6%
			鉱工業生産(前月比)	9月	0.0%

決算発表予定 他	国内	決算発表	10/13 イオン 10/14 良品計画 10/15 ベイカレント、東宝
決算発表予定 他	海外	決算発表	10/13 ゴールドマン・サックス・グループ、ジョンソン・エンド・ジョンソン、ユナイテッド・ヘルス・グループ、ウェルス・ファーゴ、JPモルガン・チェース、シティグループ 10/14 ASMLホールディング、フロクレス、ブラックロック、バンク・オブ・アメリカ、モルガン・スタンレー、ステート・ストリート 10/15 チャールズ・シュワブ、BNYメロン、TSMC、インタラクティブ・ブローカーズ・グループ

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ 米国のインフレ指標に対する警戒感が重荷となるものの、
指標発表後は企業業績への期待から底堅く推移 ~

今週の日本株市場は、米国のインフレ指標に対する警戒感が重荷となるものの、指標発表後は企業業績への期待から底堅く推移すると想定します。

本日(10/13)は、米国の大手ハイテク企業の経営層が、AIインフラ投資に必要な資金の調達コスト上昇に警戒感を示したことを受け、半導体関連銘柄を中心に軟調に始まっています。こうした調達コスト上昇の背景には、米長期金利が高水準で推移していることがあります。金利の高止まりが続けば、AIインフラ投資を進める関連企業の資金負担が増し、収益性や財務面に影響するとの懸念も高まっています。足元では、FRBによる早期の追加利上げの織り込みは後退しているものの、14日の米CPIや15日の米PPIが、市場予想を上回るなどインフレの根強さを示す内容となれば、米金利の上昇圧力が強まり、日本株の上値を抑える要因になるとみまます。また、今週はFRB高官の発言が予定されており、14日にはページブックの公表が予定されています。FRB高官やページブックが現状の景気認識や今後の利上げについてどのような認識を示すかに注目しています。一方、今週から米国企業を中心に、2026年7-9月期の決算発表が本格化します。特に、14日のASMLホールディングや15日のTSMCの決算発表は、半導体関連企業の今期の業績を見極めるうえで注目されます。これらのAI・半導体関連企業の堅調な業績が確認されれば、来週以降に本格化する国内企業の決算発表への期待が高まり、株価全体を押し上げる要因になるとみまます。その他の注目材料として、日本では15日の機械受注、米国では15日の小売売上高、16日の鉱工業生産などが挙げられます。

ALAMCO

朝日ライフ アセットマネジメント URL: <https://www.alamco.co.jp>

商号等 : 朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号
加入協会 : 一般社団法人資産運用業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント(以下、「当社」といいます。)が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。